

## 1 指導のねらい

- ・ 比較したり評価したりして読む(領域:「読むこと」)
- ・ 条件に合わせて自分の考えを書きまとめる(領域:「書くこと」)

## 2 学習活動の設定

二つの俳句を比較し、その共通点と相違点を見付ける。また、比較を通して読み取ったことを基に二つの俳句の解説文を書く。

## 3 指導の実際(1時間扱い/第3学年対象)

※扱う俳句については当総合教育センターにお問い合わせください。

学習活動	指導上の留意点・評価(○印)
1 前時までの俳句の学習を振り返り、俳句を味わう際の視点について確かめ合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時までの学習内容を振り返り、俳句を味わう際の視点について振り返らせ、比較する際のよりどころとさせる。</li> <li>○進んで学習活動に取り組もうとしている。(国語への関心・意欲・態度)</li> </ul>
2 本時の目標を確かめ合う。	
3 自分が担当した組の俳句を、学習活動1で確かめた視点(俳句を味わう際の視点)で比較して読み、共通点と相違点を考える。(学習プリント1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各組の担当を決め、二つの俳句の共通点と相違点を話し合わせる。</li> <li>・ 次の点に着目させる。</li> </ul>
[A組] 「轉りを・・・」 星野立子 「啄木鳥や・・・」 水原秋櫻子	<ul style="list-style-type: none"> <li>A組 擬人法の効果(木の描かれ方) 描かれている季節、視覚・聴覚 切れ字から読み取れる感動の対象 など</li> </ul>
[B組] 「つきぬけて・・・」 山口誓子 「あをあをと・・・」 大野林火	<ul style="list-style-type: none"> <li>B組 作者が目を向ける対象物の様子 色の対比・コントラスト 大きいもの・小さいものの対比 など</li> </ul>
[C組] 「咳の子の・・・」 中村丁女 「せきを・・・」 尾崎放哉	<ul style="list-style-type: none"> <li>C組 情景、場の雰囲気、作者の心情 など</li> </ul>
4 自分が担当した組の俳句について、共通点と相違点を発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○比較の観点を自ら設定して、二句を読み味わっている。(読む能力)</li> <li>・ 生徒の発表に対し、目の付け所のよさやその確かさについて講評したり、補足したりする。</li> <li>○友だちの読み味わい方に触れ、考えを広げたり深めたりしている。(読む能力)</li> </ul>
5 交流し合ったことをもとに、担当した俳句の「解説文」を、与えられた条件に合わせて書きまとめる。(学習プリント2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書くときの条件を確認し、その条件に従って書きまとめさせる。</li> <li>・ よく書けているものを全体で取り上げ、評価し合うのもよい。</li> <li>○条件に従って、俳句の「解説文」を書きまとめている。(書く能力)</li> </ul>

## 4 ここがポイント

- ◇ 俳句を味わう際の視点を押さえ、それをよりどころとして比較させる。
- ◇ 解説文を書くときの条件を確認し、それに合わせて書くように意識させる。

取り上げる俳句②	共通点		取り上げる俳句①
	相違点		
	比較の観点		



次に示すアとイの俳句について、あとの問いに答えなさい。

ア 白牡丹はくぼたんといふといへども紅こうほのか

高浜虚子たかはまきよし（一八七四～一九五九）

「白牡丹」が「夏」の季語

イ 斧おの入れて香かにおどろくや冬木立ふゆきだち

与謝蕪村よさぶそん（一七一六～一七八三）

「冬木立」が「冬」の季語

一 アの俳句について、次の文章中の□にあてはまる語は何か。答えなさい。

アの俳句の大意

「白牡丹」とは言うけれども、よく見てみるとほのかに□色を秘めているのがわかる。真っ白ではないのだ。そのことが、この牡丹の花をいっそうあでやかなものになっている。

二 イの俳句について、次の授業のようすの a c にあてはまる語は何か。それぞれ答えなさい。

イの俳句についての授業のようす

先生 「香におどろくや」の部分に、切れ字である「a」がついているね。感動の中心がその部分にあるというのがよくわかる。つまり、そのおいにとっても驚き、感動したというんだね。いったい何のにおいなんだろう？

生徒 A はい。斧で木を切ったときに、その切り口からにおってきたにおいだと思います。

先生 そうですね。今では、チェーンソーなどで木を切りますが、昔は「斧」だった。その切り口から漂ってきたんだね、においが。「におい」とは表現せずに、「b」と表現していることから、とってもいいにおいであつたことが感じられますね。では、この木は、どのような様子ですか？

生徒 B はい。冬ということもあって、葉もみんな落ちてしまっていて、冷たい木枯らしの中、それぞれの木がひっそりとしているっていうか、沈黙しているっていうか、そんな様子だと思います。

生徒 C はい。木々たちの命を感じないっていうか、死んだように立ちつくす木の様子が思い浮かびます。

先生 二人ともうまく俳句に詠まれた世界を想像できていますね。「c」という表現から、そうした木々たちのようすを豊かに思い浮かべられないと、この俳句は味わえませんか。では、与謝蕪村は、なぜそのおいにとっても驚き、感動したというんでしょう？

生徒 A はい。今まで経験したことのないくらい、とてもいいにおいがしたからだと思います。

先生 いや、残念ながらそういうことに驚いたんじゃないね。感動したことはほかにあるんだよ。考えてごらん。

三 アの俳句とイの俳句の共通点は何か。次の条件にしたがって書きなさい。

条件 ・「この二句の共通点は、……」で書き出すこと。

・文章中に、「それに対して」という言葉を必ず用いて書くこと。

・百十字以上、百四十字以内で書くこと。



【解答例】

一 紅

二 a や

b 香

c 冬木立

三 (例)

この二句の共通点は、発見にある。アの句では、白の中にほのかな紅を発見している。それに対してイの句では、冬の木に斧を入れたことで、木から発せられる香りに命を発見しているのだ。木はこんな冬の中でも生きていくという発見である。二句とも作者の発見がもとになっている。